



# だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 112

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 桑波田 和子  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (一財)千葉県環境財団事務局  
 環境活動支援課気付  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969

## 第14回印旛沼流域環境・体験フェア開催

フェア市民企画部会 小倉 久子

第14回印旛沼流域環境・体験フェアが、佐倉ふるさと広場向かい側の特設会場で10月29日・30日の2日間に開催されました。

フェアのテーマはここ数年連続で「水と食と発見のある印旛沼」で、市民団体、印旛沼流域の13市町、大学、県・国等の関係機関など延べ73団体(両日とも約50団体ずつ)がブース出展しました。おいしそうな特産品が並んだ市町ブースも多く、テーマにもある「食」については、年々充実してきたようです。体験型・参加型の展示も増えて、楽しい「発見」がたくさんありました。

昨年度に引き続き、印旛沼を直接感じられるEボート体験が行われ、大人気でした。またステージでは、流域市町・県のゆるキャラ撮影会、相撲甚句、スポーツ吹き矢、和太鼓演奏(以上1

日目)や、フラダンス、県立佐倉東高校ギター部のライブ演奏(以上2日目)が行われました。

環境フェアの直前には毎年のように雨が降ったり台風が来て、開催できるかどうかハラハラさせられるのですが、今年も前日までの雨で会場がぬかるみ、当日の朝に開催が決まりました。さらに、2日目は10月とは思えないような寒さのためか、来場者数は2日間で3000名(1日目:1,400名、2日目:1,600名)と、昨年度の5,400名を下回ってしまいましたが、来てくださった方たちには楽しんでいただけたと思っています。



## 第14回印旛沼流域環境・体験フェア報告

10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたり印旛沼流域環境・体験フェアが開催された。前日深夜までの雨により会場の水はけが悪く、今年もまた、当日の朝になってからぎりぎりで開催決定がされた。

環境パートナーシップちばは、今年もブースのポールに青竹の五段の花入をしつらえ、コスモスや、ダリア、キク、ススキなどの秋の花々を飾ってお客様をお迎えした。

今年の出し物は、①環境フロッタージュ(フロッタージュとは、凸凹の葉や粗目布などの上に紙を置き、鉛筆などの画材でこすってその形を写し取る技法)、②外来生物釣り(1日目のみ)、③ナガエツルノゲイトウ駆除活動紹介であった。いろいろな形の葉っぱをフロッタージュすることにより自然の造形美を感じてもらい、また、使用済み段ボールをキャンバスとして使うことでリユースの大切さを伝えながら、制作の手伝いを行った。子供たちだけでなく、大人にも楽しんでいただけたと思う。

2日目は、真冬のような寒さの到来で、来客も

出展者も震えながらの環境フェアになってしまった。残念ながら、座ってフロッタージュをするには寒すぎて、1日目に比べてお客さまの数は減ってしまった。それは他のブースでも同じで、にぎわっていたのは温かい甘酒や豚汁のお店であった。

環パブースの向かいの学生共同ブースでは、さつま芋を「ふかしいも」にして1本100円で販売しており、熱々のおいしいお芋も大人気であった。実はこのさつま芋は、環パ会員の萩原さんが、昨年度の「ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦」で駆除したナガエツルノゲイトウの堆肥で栽培して、学生企画部会に寄付してくれたものである。

売上金は熊本震災義援金に送ったとのことで、萩原さんのおかげで環パも協働に加わることができた。

(文責 高瀬充子)



## いちほら環境フェスタ 「アートフロッタージュ」の出展

10月9日（日）10時から15時まで、市原市市民会館で開催された標記フェスタで「ダンボールのリサイクル工作を生かしたアート」を目的に主として子供を対象として出展した。

フェスタの準備で到着した9時ころから降雨し始めたが、開会前から豪雨になり来場者を気にしながらの幕開けとなった。

ブースでは工作に使用するハガキ大の段ボール片、障子紙、木の葉、クレパス、のり、筆などを使って作品を作成する作業工程である。準備を整え開会を待った。

主催者の開会宣言などに続いて、環境パートナーシップちば桑波田 和子代表の挨拶で開会した。豪雨の中にも関わらず市民も来訪しはじめた。ブースでの工作への挑戦者も幼稚園児から大人まで多種多様であった。

親子連れの小さいお子さんが比較的多かったので、ダンボールの波状型穴に先の細い箸で片面の表紙を少しずつ剥がすのに時間がかかった。幼少児はなかできず手伝う親もあったが、手伝わない親が多く、私たちが手伝うことが多々あった。障子紙を使って木の葉フロッタージュを作る工程を子供らはうれしそうにクレパスで塗っていた。

雨天で来訪者の少ない時間を見計らい会場内のブースを見学したが、大人が大部分で親に連れられた子どもたちは余り多く見かけなかった。やはり雨天の影響が大きかったと思った。



（文責 吉田 陸）

## 第6回Eボート千葉大会に参加しました

2016年10月15日、ハーバーシティ蘇我で開催されました。

大会の目的は、水辺を体感し、学びと遊び、人との交流、地域との交流できる機会を目指し、環境（県民の交流促進を図り、連携型の環境保全活動につなげる）、交流促進（世代・地域・チームを超えた交流を図る）、教育（県内の水資源を活用し、水環境の保全について理解を深める）、防災（災害時に助け合う広域共助の促進を図る）、遊び（水辺遊びの体験を通じて次世代に向けた水辺文化を創造する）です。ファミリーの部と一般の部を合わせて県内各地から35チームが集まりました。

私は、昨年に引き続き環境パートナーシップちばのメンバーとして、一般の部に参加しました。予選は各チーム2レース行い、良い方のタイムをチームの記録として順位を決定し上位5チームが決勝レースに進みます。アカインバーさんの選手宣誓後、大会が始まりました。

ボートを漕ぐのは少し不安な面もありましたが、かっこ良くて頼りになる舵取りさんに分かりやすくボートを漕ぐ際のコツを教えていただき、無事ゴールできました！残念ながら決勝に進めませんでしたが、チームで一致団結できたことがすごく良かったと思います。

また、各チームの集合写真を撮る係も担当しました。写真を撮るときに、各チームの方たちと会話を取れたため、レースに出場するだけではできない貴重な体験となり、より大会を楽しめたと思います。

優勝したチーム「暴漕連合」の昨年も参加したメンバーに感想を聞いてみたところ、『昨年は実力の差で負けてしまった。今年は頑張りました』とのことでした。

最後の交流会のじゃんけん大会では、大人・子どもともに夢中になって楽しみました。ボートに乗り、楽しみながら地域・世代の交流を行いつつ、水辺の大切さに関心を持つきっかけとなる大会になっていたと思いました。（文責：茂野芽衣）



## こども環境会議ちば

2016年9月23日に「エコメッセ2016 in ちば」会場の一部で、千葉県主催の「こども環境会議ちば」が環境パートナーシップちばの企画・運営で開催されました。当日は朝から千葉県内に大雨警報も発せられる中、幕張メッセ国際会議場には雨にも負けない元気な子供たちがサポーターさんに連れられて大勢集まってくれ、まずはホッとしました。

主催者である千葉県の開会挨拶の後、最初はアイスブレイキングを兼ねて、講師の関隆嗣さん(国際青少年研修協会)による楽しいアクティビティ。大人のほうがずっと苦労しながら、にぎやかに身体を動かしながら、一気に参加者の間の距離が縮まりました。

次はメッセ会場内をグループごとに自由に巡って「取材」です。いろいろなブースで熱心に質問したり体験したりしていました。昼食の後はゆっくり休む間もなく、午前中の取材結果を壁新聞にまとめる作業です。限られた時間内で、たくさんの「見(た?)こと・学んだこと」を、グループで話し合いながら、1枚の模造紙にまとめていきます。下書きをする子供、清書する子供、空いた

スペースにイラストを描く子供、など、手際よく作業を進める様子を見て、さすがいつも「こどもエコクラブ」で活動している成果だと感心させられました。

多分時間切れで完成しないだろうという予想は見事に裏切られ、出来上がった壁新聞の出来栄えはどれもすばらしく、それを発表する態度も立派でした。

最後にみんなで記念撮影をして、出来上がった壁新聞をおみやげにして、会議は時間通りに終わりました。短時間ながらとても充実した会議ができて、スタッフとして参加した私もとてもハッピーな気持ちにさせてもらうことができました。

(文責 小倉久子)



## 「森の観察会～なるほど！これが木の生命力」参加報告

10月22日(土)に佐倉城址公園を会場にして「森の観察会」が開催されました。

会場の公園は名前のごとくお城の跡地を公園にして解放され、公園の一角には国立歴史民俗博物館があります。

観察会は、講師の千葉県北部林業事務所職員で樹木医でもある森浩也氏から公園内のコースを巡りながら、楽しく分かりやすい話を沢山聞くことができました。開講にあたり、カラー刷りレジメのファイリングが配布されページには日本の森林の話、カメムシの話、キノコの話、竹林の話、樹木の根の話等盛りだくさんの記載内容の資料でした。以下、参加者の間で好評だった話題のいくつかを紹介します。

シイ、カシ、もみじなどの大木がいたるところに自生したコースの入口でスタジイの大木を前にして説明がありました。「シイやカシなどは房総半島を代表する植物。昔から自生する常緑広葉樹であり、長い年月をかけて遷移し、極相樹林に近い形態になっている。」また、杉の根元に立ち止まっては、「この木は実生のスギです、千葉県に多く植林されているサンプスギ(サシスギ)と比べると枝が太く、非赤枯性溝腐病にあまり罹病しないことから約100年を経ていると思われま

すが、大木となっていてまだ健在です。」次は専門的な話から一転、身近な話です。林床の見やすい場所ではキノコの話「千葉県で採れるバカバカマツタケ」、竹林の前に着くとタケノコの話「穂先の黄色いのが美味」に盛り上がり、全員が興味津々。ヒノキの大木がそびえる前では、葉の形が似ているヒノキとサワラの相違の観察です、葉の裏側に白い模様の「Y」がヒノキ、「X」の形がサワラを覚えました。

短時間ではありましたが、盛り沢山の話を聞くことができました。特に室内の講座に比べ、アウトドアの会場設営により身近の樹木が教材になり直接手に触れ、匂いを嗅ぐこと等体感できたので多くの参加者が満足された講座でした。

(文責 萩原耕作)



## 28年度千葉県環境講座報告

## リーダー養成講座

去る11月26日、千葉県環境講座で「リーダー養成講座～はじめの一步 この指とまれ～」の3回目を開催しました。これは全4回でこれまで、プレゼンテーションの方法ということで川嶋直さんの「KP法」を学び、NPO企業教育研究会の市野さんからSNS情報発信について学びました。

今回は「聞くことから始める団体運営」と題して、活動するに当たって団体をこれから運営していくに当たり、既に活動している3団体から直接お話を伺おう、ということと、団体に人も資金も巻き込んでいくために必要なマーケティングについて学ぶことが目的でした。

まず午前中は、3団体から直接団体運営について、お話を伺いました。お越しいただいたのは、温暖化防止活動団体の「アースドクターふなばし」、里山活動団体の「SaToYaMaよくし隊」、中間支援団体である「環境パートナーシップちば」の3団体です。それぞれ活動の紹介と運営で工夫されている点やご苦労されている点をお話いただいたあと、各グループに直接入っていただきました。そのため参加者が直に質問や、さらに聞きたいこと、自分たちが実際に悩んでいることを、聞くことが

できました。

午後からは、松橋からマーケティングについてお話をいただきました。どうしても活動していくと、自分たちの言いたいことを話し過ぎてしまうきらいがあるので、まず聞くことが基本であることをお話しました。相手のことを聞き、相手に関心があるからこそ、相手の興味関心・悩みの解決に役立てるように、わたしたちは話そうと、ということ。そして計画的に繰り返し、活動に興味・関心のある人を増やす活動( $\alpha$ )と参加する人から一緒に活動する仲間までコアな活動に誘う( $\beta$ )、繰り返し参加してくれる( $\gamma$ )、3つの活動を行うことが必要という話をしました。

次回、12月3日に「合意形成」を実体験しながら学び、最終回を迎えます。(文責 松橋 功)



## 28年度千葉県環境講座報告

## 太陽熱温水器を作ろう

千葉県環境講座を、11月19日(土)午後、柏市のさわやかちば県民プラザで開催しました。温暖化防止流山代表の春田郁夫氏を講師に体験型講座として『太陽熱温水器模型を作って水温をはかり、熱エネルギーを実感する』をテーマに、6組15人の親子が参加しました。

まず参加者全員が一人一台のキットを組み立てて温水器模型を作りました。本来なら作った模型のタンクに水を入れ屋外の太陽光のあたる場所に置き、時間経過でタンクの水温がどう変化するかを計測するのですが、前日の小春日和の晴天とはうらはらに当日は雨だったため、事前に用意した200Wの白熱灯を太陽に見立て室内で模擬実験を行いました。

計測時間を待つ間、春田講師からクイズやビデオにより、1)家庭で使われるエネルギーのうち暖房用と温水用に使われるのは60%以上を占めること、2)太陽熱を利用する場合のエネルギー変換効率は太陽発電では10%であり、太陽熱温水器では40%であること、3)太陽のエネルギーをうまく使うことにより地球温暖化の原因となっているCO<sub>2</sub>削減につながることを教えていただきました。

晴れた日に流山で行った結果は20分間で18℃から25℃と7℃上昇し、1時間では46℃にもなり触ると熱いほどだったと説明の後、模擬太陽での計測結果をみんなで確認しました。計測前22℃だった水温が40分間で26℃になり4℃上昇するという結果が出ました。

屋根の上に設置された太陽光発電器は知っていても、最近あまり見かけなくなった太陽熱温水器で電気を使わずお湯ができてお風呂の給湯等に利用されていることを実験で知って、参加した子供たちは納得したようでした。作った模型と温度計は持ち帰っていただき、晴れた日にお家で再トライしてもらうことを約束し講座を修了しました。

(文責 川島謙治)



## 28年度千葉県環境講座報告

## ローマ法王に米を食べさせた男

11月20日(日)、13:30~15:30千葉県教育会館新館501会議室で、千葉県環境講座「ローマ法王に米を食べさせた男」の講演会を開催しました。講師の高野誠鮮氏は、羽咋市役所元職員、総務省地域創造アドバイザー等地域創生に大活躍で、スーパー公務員とも呼ばれていました。

参加者は総勢44人でした。高野氏からの胸に響く言葉と温かさ粘り強く実行されたことなど、言葉の重みを感じながらアツと言う間に2時間の講演時間でした。

内容は、石川県羽咋市にある<sup>みこほら</sup>神子原地区の限界集落の活性化に向けた取り組みについてでした。

神子原地区は、20年前に比べ人口は半減、高齢化、農業後継者不足、耕作不利益等、現在どこにでもある課題に立ち向かわれました。課題解決のために、庁内の会議の合理化、出来ない理由を考えない、ゴールに近づくために積極的で前向きな対処法を実施する、駄目もとで、とにかくやってみるなど、思考の方向性を定め対策をされたそうです。集落が疲弊する原因を究明し、石川県最大の棚田がある、携帯が繋がらないなどのプラス要因を活かし、空農家農地情報、烏帽子親農家制度など多様な政策と支援を活用した結果、高齢化

率が改善され、月額30万円超の農家ができました。また、12家族35名が他県から移住したそうです。このあたりの様子はTBSテレビで放送された「ナポレオンの村」でも表現されていたそうです。

知識の「識」は、体を使って体験し、知識として活かして欲しいとの言葉が残りました。地域創生のために、地域にキーマンが必要、情報は世界、日本等、外に発信し、地元は後でも良い、環境保全と密接につながるなど、多くのヒントと元気をいただいた講演会でした。(文責 桑波田 和子)



## 東京湾大感謝祭に参加して

東京湾をなんとかして「ゆたかな江戸前の海」に戻したいといういろいろな立場の人が集まって、「東京湾再生官民連携フォーラム」という仕組みが2013年にできました。文字どおり官(国、自治体)も民(企業も市民など)も研究者(大学、研究機関など)も、環境関連の人も、水産関連の人も、みんなで集まって作った組織です。

このフォーラムの中にはいろいろなプロジェクトチーム(PT)が作られて、それぞれ手弁当で活動していますが、その一つの「東京湾感謝祭PT」が中心になって、4年前から毎年10月に「大感謝祭」が開催されています。2年目からは会場が横浜赤レンガ倉庫に移り、もともと人気スポットでもあるため、毎年非常に多くの来場者がいます。今年は印旛沼のフェアと開催日がずれたので、念願かなって参加することができました。

幸いにお天気に恵まれた10月22日、23日は、屋外では「ふるさと納税大感謝祭」も併催されていて、東京湾の幸のみならず、全国市町村のふるさと納税の返礼品試食ブースが並んでおり、来場者はあちこち試食を楽しんでいました。残念ながらスタッフとして参加した私は、短いお昼休みを使って会場内の「視察」もしなければならなかったため、試食は断念。今考えても残念でなりませ

ん。

その他、広場ステージでエコカー、ゆるキャラなど26プログラム、海岸・海上ではハゼ釣り体験、ヨット・ボート体験など盛りだくさんの企画が行われ、両日の正午には横浜港に停泊中の船が一同に汽笛をならして、感謝祭を盛り上げました。

赤レンガ倉庫では「知ろう・学ぼう!海の学び場」として、下水道、海の生き物、文化などの参加体験型環境学習ブースが並んでいました。どこも展示内容や見せ方に工夫を凝らしており、とても参考になりました。

全出展者数は147団体。参加者総数はなんと、98,000人だったそうです。(文責 小倉久子)



## 地域交流センター40周年記念交流会に参加して

地域交流センターの前身となる『廃棄物資源化研究会』が都市小屋集で1976年4月スタートして40周年となり、「記念交流会」が平成28年10月1日（土）に国立オリンピック記念センターで開催され、参加してきました。

市川の友人から「田中栄治さん」というすごい人がいると紹介されたのが、環境パートナーシップちばが誕生した頃ですから、20年近いご縁をいただいている団体です。そこでお会いする様々な方から地域交流センターの活躍は、お聞きしてきましたが、40周年記念誌を拝見して話がやっとつながりました。

廃棄物研究会から地域交流センターが設立され、環境問題解決のためには市民生活の転換を「産・官・学・野」連携で取り組む「日本エコライフセンター」が設立、公共トイレを考える「日本トイレ協会」の発足、道路にも駅の機能（トイレや待合）があっても良いのではという交流会意見から

「道の駅」ができました。人と人の交流場が「まちの駅」になり連絡協議会が駅をつないでいます。

川からのまちづくりでは、中継ぎ役となり「全国水環境交流会」を発足させ、ダム水源地交流協議会から「Eポート」の開発と普及が始まり、浦安水辺の会メンバーが中心になった利根川・江戸川下りでも応援をいただきました。Eポートの地域大会・災害時活用と進み、「川の駅」の普及が進められています。

今後も「全国主張連携交流会」「提言・実践交流会」で首長ネットワークに取り組み、「安全・安心まちづくりワークショップ」「湾岸防災ネット」で防災まちづくりに取り組み、「通学路を通楽路に」「新教育システム開発プログラム」「伊達市移動教室」で学校・教育に取り組みと様々な芽を育ていくようで、今後も楽しみです。

（文責 横山清美）

## 環境パートナーシップの20年

林 浩二（千葉県立中央博物館）

地球環境パートナーシッププラザ20周年記念シンポジウム「GEOCとこれからのパートナーシップ」が2016年10月12日（水）午後、渋谷区神宮前の国連大学ビルで行われ、116名が参加しました（写真、注1）。環境庁（当時）と国連大学、財団法人日本環境協会の協働事業として地球環境パートナーシッププラザ（現GEOC、旧略称GEIC）と環境パートナーシップオフィス（EPO）が国連大学と近隣のビルにオープンしたのは20年前の1996年10月のことです。

環境分野でパートナーシップという言葉が脚光をあびたのは1992年、リオ・デ・ジャネイロで開催された国連開発環境会議（地球サミット）です。そこで決議された「環境と開発に関するリオ宣言」や行動計画「アジェンダ21」では持続可能な開発の実現のための「グローバル・パートナーシップ」の必要性が強調されました。

わたし自身、環境庁（当時）と市民フォーラム2001の共同事業である「環境教育シンポジウム'95」等の企画実施に関わる機会がありました。GEOC設立の直前のことです。

渋谷に1か所だけだった環境省による環境パートナーシップオフィス（EPO）は地方に展開し、今や、北海道（札幌）、東北（仙台）、関東（東京）、

中部（名古屋）、近畿（大阪）、ちゅうごく（広島）、四国（高松）、九州（熊本）と広がり、それぞれ地域のNPOなどによって運営されています。「環パちば」がそうであるように、都道府県や市町村単位でも環境パートナーシップのための「会議」や「センター」ができています。

形だけのパートナーシップにならないように常に注意・点検しつつ、持続可能な地域と国、さらに地球のための教育に取り組みたいものです。



注1：国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）のサイトに報告が出ており、当日の発表資料もダウンロードできる。

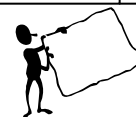
<https://ias.unu.edu/jp/news/news/geoc-project-celebrates-20th-anniversary-with-sdg-dialogue-event.html#info>

## 県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 36 —

おききました！ この人・この団体

## 船橋市生活学校の環境活動について

かつしか生活学校 副委員長 高橋美代子



1

私たちの船橋市生活学校は、船橋市内各公民館を拠点に13校が活動しています。

船橋市生活学校は、日々の暮らしに密着した経済・食育・消費・少子高齢・環境・福祉・健康防災等を1年間通して学習している団体です。中には、創立36年の歴史ある学校、まだ新しくできた3年目の学校もございます。

そして生活学校は、全国組織であり、451校15,000人が活動している団体であります。年1回全国の生活学校が東京に集まり、全国大会が開催されています。

大会は、第1分科会「高齢者支援」、第2分科会「食品ロス削減全国運動」、第3分科会「地域づくり」の3分科会に分かれて討議しました結果、平成28年度は、「食品ロス削減全国運動」を展開し実践することになりまして、地元船橋に持ち帰り、各13校の学校生（735名）の協力をいただきまして、環境問題を継続し学習しています。

これまでの環境問題学習の流れと活動報告をご紹介します。

「船橋環境フェア」に平成12年から23年の10年間、地球温暖化防止や水質汚濁等の環境学習の成果を発表することを目的に、毎年テーマを変えて展示していました。

毎年参加している「三番瀬クリーンアップ」に、おそろいのピンク色のジャンパー姿で、今年も

0月23日に参加清掃してきました。

「レジ袋削減運動」を平成19年から「レジ袋使わないで、ハンコください。」を合言葉に展開し、地球環境温暖化防止に配慮した運動として大きな成果を出した結果、全国生活学校が「環境大臣賞」を受賞することができました。

「食品ロス削減見直しデー運動」は、平成26年10月から平成28年3月まで、無駄にしてしまった食材・食料品を記入することを毎月1回実施し、3年目に入ります。記入することで意識が変化し、無駄な食料品のロスが少なくなる習慣に心がけました。食品ロスの見直しメニューのレシピを全国大会で集めてレシピ集を作成しました。我が船橋生活学校からも、ロスの食材を使ったレシピが15メニュー掲載されました。

今年度は、更にステップアップするために「フードドライブ」の実践活動をする事になり、既に各学校で「フードドライブ」に取り組み始めています。現在家庭にある食料品（乾物・缶詰・レトルト食品・乾麺などの保存食品）を募り、食品を必要としている人たちに寄付するための活動がはじまりました。

以上のように全国展開運動として、環境問題取り組みを学校の生徒に呼びかけして活動している団体です。



フードドライブ



レジ袋減らしたい



食品ロス レシピ集

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを info@kanpachiba.com にお知らせください。(広報部)

## 10月運営委員会

日時 10月13日(木) 18:00~20:30  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・エコmesse 2016in ちば開催(9/22)
- ・環境講座 ・だより111号発送
- ・印旛沼流域環境・体験フェア出展者説明会(10/4)
- ・いちばら環境フェスタ開催(10/9)
- ・その他

### 【協議】

- ・だより112号 ・Eボート千葉大会参加(10/16)
- ・印旛沼流域環境・体験フェア出展(10/29・30)
- ・環境講座(10/22)
- ・その他

## 11月運営委員会

日時 11月9日(水) 18:00~19:30  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・Eボート千葉大会参加(10/16)
- ・環境講座(10/22)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除(10/25)
- ・印旛沼流域環境・体験フェア出展(10/29・30)
- ・環パ法人化検討委員会(10/20・11/4・11/17)
- ・印旛沼学びワーキング(10/19)

### 【協議】

- ・花見川ナガエツルノゲイトウ調査(1/26・27)
- ・市原環境市民大学 講師依頼(11/24・12/1)
- ・環境講座(11/19・20・12/11・11/26・12/3)
- ・その他

## お知らせ

### 平成28年度千葉県環境講座 バスで行く 最新! ゴミ発電見学と 老舗蔵元見学

内容: 成田市のいずみ清掃工場を見学して、日本初! 自治体が連携する電力会社「(株)成田香取エネルギー」についてお聞きします。また、酒々井町の創業300年の蔵元を見学します。

日時: 平成29年1月19日(木) 9時~午後4時  
集合場所: NTT千葉(JR千葉駅より徒歩5分)  
見学先: 成田富里いずみ清掃工場・(株)飯沼本家  
参加費: 無料  
対象: 千葉県在住・在勤・在学の18歳以上の方

※申し込み多数の場合は抽選となります。  
申し込み締切: 平成29年1月5日(木) 17時

※お申し込みは、<http://kanpachiba.com/> をご覧ください。

主催: 千葉県  
実施団体: 環境パートナーシップちば  
電話: 090-8116-4633

### 平成28年度バイオマス利活用研修会開催のお知らせ (千葉県循環型社会推進課)

日時: 平成29年1月24日(火) 午後2時~4時  
会場: 千葉市ビジネス支援センター会議室  
(千葉市中央区中央4-5-1 きぼーる13階)  
定員: 100名(要事前申込み) 参加費: 無料

#### プログラム:

- バイオマスとは  
千葉県環境生活部循環型社会推進課
- 食品残さを原料とした飼料の製造  
株式会社IWDアグリ  
営業第二部 部長 佐々木精一郎氏
- 家庭から出るせん定枝等のバイオマス利活用の取組  
千葉市環境局資源循環部廃棄物対策課 主査 中野 保氏

申込方法等、詳しくは、<http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/event/2016/biomass.html> をご覧ください。

問合せ先: 千葉県循環型社会推進課 資源循環企画室  
電話 043-223-2759  
Eメール e-biomass@mz.pref.chiba.lg.jp

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: (一財) 千葉県環境財団  
業務部環境活動支援課 気付  
TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969  
Eメール: info@kanpachiba.com  
会費納入先: 環境パートナーシップちば  
郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば> 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		